

（仮称）アートセンター基本計画

平成 17 年 5 月

川崎市

（仮称）アートセンター基本計画 目次

はじめに	1
1 アートセンターの基本理念と基本方針	2
(1) 基本理念	2
(2) 基本方針	2
(3) コア施設の基本目標	2
2 施設計画の基本的な考え方	3
(1) 導入空間の考え方	3
(2) 各導入空間とその機能配置	3
ア フレキシブル空間	3
イ 演劇のための空間	4
ウ 映像のための空間	4
(3) 各導入空間等の計画	5
ア 各導入空間の規模	5
イ 施設配置等の基本方針	5
ウ 各導入空間の設計上の配慮事項	6
3 運営の基本的な考え方	8
(1) 運営の前提となる考え方	8
(2) 運営分野、運営費等	8
ア 運営分野	8
イ 運営費等	9
ウ 効率的な管理運営	9
参考資料	10

はじめに

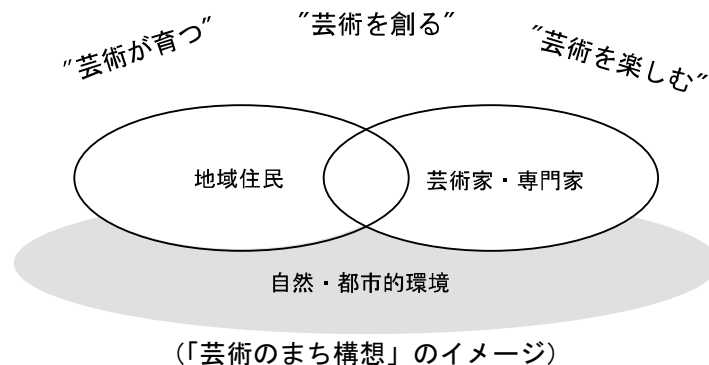
- ・平成 16 年 12 月にアートセンター整備推進協議会から出された「アートセンター整備事業の推進に向けて」の提言を受け、アートセンターの施設設計と管理・運営に関する基本事項を検討するため専門部会を設置し、アートセンターの中心施設となる『アートセンター・コア』の検討を行ってきたところである。
- ・アートセンター・コアは、新百合丘周辺地区における日本映画学校や移転予定の昭和音楽大学などの文化芸術機関の立地、さらには多くの文化芸術関係者の居住などにより、形成されている独自の文化芸術環境を発展させるため、地域の資源をネットワークでつなぎ、そのかなめとなる役割を担っていくものである。
- ・文化芸術活動を川の流れに例えた場合、文化芸術が生まれ出る泉の部分と、それがネットワークにより結びつき、作品となって流れ出す川の部分と、そして海に注ぎ込み、多くの市民に鑑賞される、楽しんでもらう部分と、この 3 つで考えることができる。
- ・アートセンター・コアは、文化芸術が生まれ出る泉の部分を負うとともに、ネットワーク化とあわせて文化芸術を創造する活動の拠点として位置づけるものである。
- ・本基本計画は、提言の中に示されている新時代に即した“ネットワーク型アートセンター”を実現するための核となるコア施設について、以上のように位置づけ、施設整備の具体的な方向を示すものである。

1 アートセンターの基本理念と基本方針

(1) 基本理念

○これまでの芸術のまちづくりを継承し、発展させるアートセンターに

- ・これまでの芸術のまちづくりの動きや地域に根付いた独自の文化・芸術資源を活かした「芸術のまち構想」を継承し、発展させることをアートセンター整備の基本理念とする。



(2) 基本方針

○周辺の文化・芸術施設との連携によるネットワーク型アートセンターの構築

- ・アートセンターは、ネットワークの総称とし、麻生区ならびに新百合ヶ丘駅周辺地区の文化・芸術施設との連携を図り、個々の施設の独自性を活かしつつ、ネットワークによる相乗効果を発揮するネットワーク型アートセンターとして構築する。
- ・その拠点として、芸術のまちのシンボルとなるコア施設を整備することで、人を呼び込み、地域イメージを高め、併せて芸術のまちづくりのマネジメント機能を担うことにより、“芸術が育ち、創り、楽しむ”という芸術のまちをつくるための「核」とする。

(3) コア施設の基本目標

○文化芸術活動のインキュベータのメッカに

- ・芸術のまちづくり活動やプロを目指す活動、さらには市民活動を育成し、独り立ちを支援する拠点とする。

○コラボレーション機能（情報受発信、企画運営、サロン・交流…）

クリエイション機能（創作）

プレゼンテーション機能（鑑賞＝発表）

三位一体で
備わった場に

- ・これまでに行われてきた芸術のまちづくり活動やイベントを実行し、発展させる場
- ・市民がよりよい文化的環境づくりに取り組み、若い芸術家が育つ場
- ・質の高い文化・芸術を享受し、体験する場

2 施設計画の基本的な考え方

(1) 導入空間の考え方

○導入空間には、アートセンターに求められる次の三つの機能を、三位一体で備えるものとする。

コラボレーション機能（芸術が育つ）
クリエイション機能（芸術を創る）
プレゼンテーション機能（芸術を楽しむ）

○これらの機能は、独立して配置されるのではなく、次の空間に、それぞれ三位一体で備わるものとする。

“フレキシブル空間” “演劇のための空間” “映像のための空間”

○三つの空間は、それぞれ補完関係にあり、独立しても、コア全体が一つの空間としても機能するものとする。

- ・三つの空間は、それぞれが独立した空間として、コラボレーション、クリエイション、プレゼンテーション機能を発揮できるとともに、コア全体が一つの空間として演劇や映像、その他の芸術・文化活動に使えるよう関係を持たせるものとする。

(2) 各導入空間とその機能配置

- ・各導入空間とその機能配置は、概ね次のとおりとする。

ア フレキシブル空間

- ・この空間は、ネットワーク型アートセンターの核としての機能を果たすとともに、演劇、映像のための空間をマネジメントする、空間の自由度や柔軟性が高い空間として、次の機能を備えるものとする。

- (ア) 人材育成と活動支援を主眼に、人が集まり情報と交流が生まれる場（サロン、情報受発信〈＝しんゆりアートネット〉、ボランティアの活動拠点）、多様な活動のマネジメント企画のための拠点などに利用できる場（コラボレーション機能）
- (イ) 演劇、映像のための空間をマネジメントするワークショップ等開催のための作業の場（クリエイション機能）
- (ウ) 演劇、映像のための空間をマネジメントするためのこれらの空間外でのパフォーマンスの実施などに利用できる場（プレゼンテーション機能）

イ 演劇のための空間

- ・この空間では、主に演劇分野を中心に、次の機能を備えるものとする。
 - (ア) ワークショップの場、文化機関・教育機関・文化施設（映画学校、音楽学校、大学等）との連携の場（コラボレーション機能）
 - (イ) 舞台稽古の場、舞台装置製作の場（クリエイション機能）
 - (ウ) 舞台公演・芸術活動の発表の場（プレゼンテーション機能）

ウ 映像のための空間

- ・この空間では、主に映像分野を中心に、次の機能を備えるものとする。
 - (ア) バリアフリー上映や子どものための映画鑑賞の場、文化機関・教育機関・文化施設（映画学校、音楽学校、大学等）との連携の場、各種市民グループのイベントの場（コラボレーション機能）
 - (イ) ジュニア等の映像制作の場、映像を主とする各種講座・文化セミナー等の場（クリエイション機能）
 - (ウ) 映像上映の場（プレゼンテーション機能）

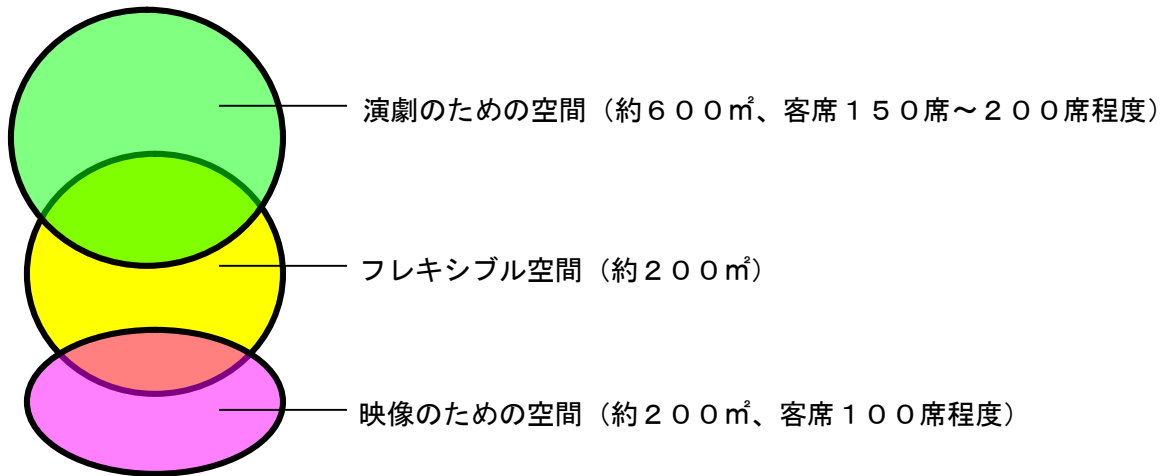
■参考（導入空間と機能配置について）

	コラボレーション機能	クリエイション機能	プレゼンテーション機能
フレキシブル空間	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集まり、情報と交流が生まれる場（サロン、情報受発信＝しんゆりアートネット）、ボランティアの活動拠点 ・マネジメント企画のための拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇・映像空間をマネジメントする作業の場 	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇・映像空間をマネジメントするためのパフォーマンスなどの場
演劇のための空間	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの場 ・昭和音楽大学等との連携の場 	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台稽古の場 ・舞台装置製作の場 	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台公演・芸術活動の発表の場
映像のための空間	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー上映の場 ・子供のための映画鑑賞の場 ・日本映画学校等との連携の場 ・各種市民グループのイベントの場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア等の映像制作の場 ・映像を主とする各種講座・文化セミナー等の場 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像上映の場

(3) 各導入空間等の計画

ア 各導入空間の規模

- ・各導入空間の規模は、概ね次のとおりとする。



総延床面積、約1200㎡（その他機械室、廊下等を含む）

イ 施設配置等の基本方針

(ア) 敷地に関する基本方針

- ・コア施設の敷地は、緑地保全区域等と隣接しており、空間計画にあたっては、両者を総合的に考えることにより、万福寺のまちの景観にとっても、緑地保全にとっても有効に働くものとする。
- ・一方、コア施設の敷地は、面積、敷地形状等に制約が多いので、隣接する緑地保全区域等と連携することにより、計画の自由度を向上させるものとする。

(イ) 施設配置・デザイン等の基本方針

○周辺と調和するシンボリックな施設にするための設計上の配慮を行う

- ・敷地は、万福寺地区の玄関となる世田谷町田線と麻生2号線の交差点角地に立地し、豊かな緑を保全する緑地保全区域を後背に擁し、さらに万福寺地区の目抜き通りとなる麻生2号線に面している。
- ・このような周辺環境との調和等を図り、コア施設を万福寺地区におけるシンボリックな施設として設計できるように、次の事項に配慮する。

●緑地保全区域に配慮した建物の配置、デザインとする。

- 緑地保全区域とのつながり（物理的、視覚的）の重視
- 建築物の高さの調和、建築物の外観の工夫

●限られた敷地の有効活用を図り、落ち着きのある雰囲気を創出できるように建築物の配置を行う。

→セットバック部分の利用計画と連携した建物の配置を行う。

●まちの玄関となる、また、屋外空間を有効利用したアプローチを確保する。

→セットバック部分と一体化したアプローチの配置による敷地の有効活用

→セットバック部分と一体化することによる、誰もが気軽に出入りできる雰囲気の創出

●アクセス道路（麻生2号線）に交通負荷を与えず、また、アクセス道路の景観を損なわないような駐車場の配置を行う。

→交差点付近から離れた場所への駐車場出入口の設置（駐車台数的にも配慮）

→駅周辺及び万福寺土地区画整理区域内における駐車場の活用

○屋内外すべての空間にコミュニケーションするような空間配置に配慮する。

- ・敷地において、限られた空間を有効に使いながら、良好な環境を有し、かつ機能性の高い空間を実現するため、施設の入口から後背の緑地へ連続し、コミュニケーションが図れるような空間配置に配慮する。

○バリアフリーに配慮したデザインを考慮する。

- ・コア施設は、バリアフリーに配慮したデザインとなるように考慮する。

○緑地保全区域と一体となった緑地を確保する。

- ・アートセンター敷地内に緑地保全区域と一体となった復元緑地を確保する。
- ・建物の屋上部分の緑化についても考慮する。

ウ 各導入空間の設計上の配慮事項

- ・アートセンター全体で、各機能が分担、共有できるよう、拡張性の高い設計とする。
- ・専門性が高く、ユニバーサルな運営を図るために、各導入空間の設計にあたっては、次の事項に配慮する。

（ア） フレキシブル空間

- ・マネージメントの拠点となる空間をつくる。
- ・サロンの交流空間をつくる。
- ・クリエイションの実践となる作業空間をつくる。
- ・演劇、映像のための空間を補完する機能を持つ空間をつくる（楽屋、稽古の場、編集の場など）。
- ・上記の空間について、自由度、柔軟性が高く、応用が可能な配置とする（規模可変の会議室など）。

(イ) 演劇のための空間

- ・演劇のプレゼンテーション、クリエーション、コラボレーションのために、小規模でも多様な変化が可能で、十分な機能を備えた空間とする。
(可変性のある舞台・客席とし、プロセニウム (間口・高さ)、3面舞台袖などについても可能性を残すものとする)。
- ・舞台に付帯する施設 (楽屋、稽古場等) は、映像のための空間、フレキシブル空間を含め、アートセンター全体で、機能の分担、共有などの工夫を行うものとする。

(ウ) 映像のための空間

- ・映像のプレゼンテーションのため、映像スクリーン、映写設備、音響設備、副音声設備などを備えた空間とする。
- ・クリエーションのためのワークショップ、各種講座などにも使える空間 (会議、公演、講習会などにも利用できる空間など) とする。
- ・コラボレーション企画の実践の場となる空間とする (舞台挨拶等が可能な小規模なステージの設置など)。
- ・上記の設備等を活用し、コラボレーションのための機能 (情報の受発信機能、交流機能、企画運営機能等) を十分に充足する空間となるように、空間配置や設備の設置等の工夫を行うものとする。

3 運営の基本的な考え方

(1) 運営の前提となる考え方

- ・ 施設等の設計、建設は、市が行う。
- ・ 施設の管理運営は、指定管理者制度による。
- ・ 施設の維持・管理費は、市が負担する。
- ・ 運営に必要な最少限度の経費は、市が負担する。

公共施設として整備されるアートセンター・コアの運営は、運営の原則（公共性、公平性を確保する）に基づくとともに、次の2つの条件を満たすこととする。

- ・ 市民誰もが公平に利用できること
- ・ 自主事業など特定の公演等の利用が一定期間、保障されること

ネットワーク型アートセンターの構築のために、アートセンター・コアの運営にあたって、次の2つの課題に取り組むこととする。

- ・ 文化・芸術関連の周辺施設との連携
「芸術のまち構想提言」において「しんゆりアートネット」として掲げられているような、周辺の文化・芸術施設との連携に取り組むものとする。特に新百合21施設の活用や昭和音楽大学をはじめとする周辺の民間施設との連携を図り、市民の利用度が高まるような仕組みづくりに取り組むものとする。

■参考（アートセンターとして連携・活用等が望まれる周辺施設と諸室等）

○音楽練習室（スタジオ）	：昭和音楽芸術学院スタジオ 等
○工芸・美術等アトリエ	：市民館会議室・実習室 等
○音楽ホール	：市民館ホール、新百合21ホール、 昭和音楽大学ホール 等
○ギャラリー	：市民館ギャラリー、新百合21 等

- ・ 市民の文化・芸術活動等との連携
ネットワーク型アートセンターでは、周辺の文化・芸術施設だけではなく、地域の文化的財産となる様々な市民の文化・芸術活動の組織、人材などとの連携が重要であり、これらの連携に取り組むものとする。

(2) 運営分野、運営費等

ア 運営分野

(ア) 維持管理

- ・ 施設のメンテナンス等を行う。

(イ) 運営

a 施設運営

- ・ 事業等の企画の立案、周辺施設との連携業務、貸館業務、委託費等の管理等を

含めた、施設管理以外の運営全般。

b 事業実施

- ・施設運営で定められた企画の方針に基づき、事業の実施を担う。

イ 運営費等

(ア) 市の委託料

- ・管理費、運営費等に要する費用

(イ) 事業収入

a 自主事業

- ・舞台公演や映画上映会等の収入

b 貸し館事業

- ・舞台等の施設、会議室等を一般に貸し出すことによる収入

(ウ) 外部資金の活用

- ・自主事業の実施にあたっては、会員制度等による会費、助成金、寄付金等を積極的に獲得し、財源確保に努めることとする。

(エ) 提携・共催事業の推進

- ・他の組織や施設等との提携や共同開催による事業の推進を図り、事業費の軽減に努める。

※ 利用料金制度の採用により、事業収入については、指定管理者の収入として収受することとする。

ウ 効率的な管理運営

- ・施設の維持管理については、管理運営コストの削減に留意し、効率のよい管理運営を行なうこととする。

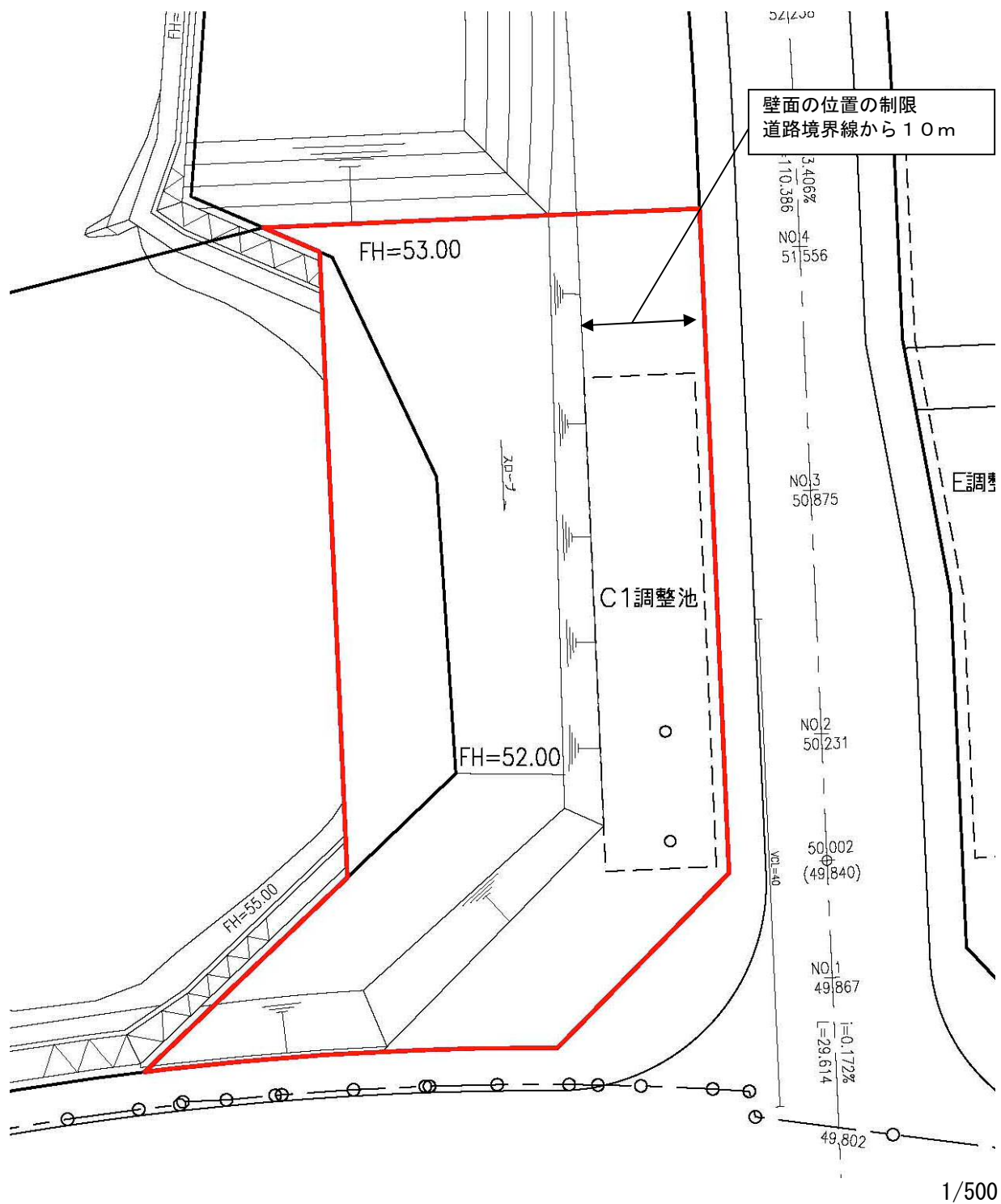
参考資料

- 1 施設予定地について……………11
- 2 敷地について……………12
- 3 今後のスケジュールについて……14

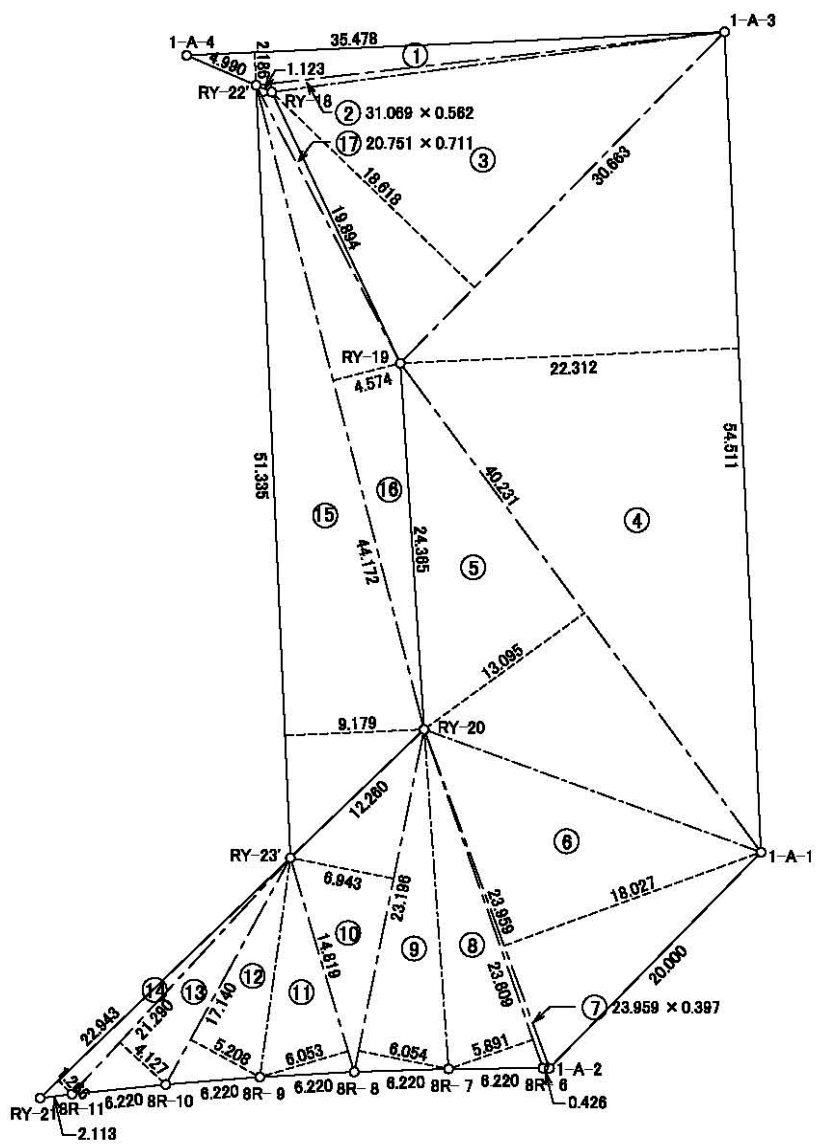
2 敷地について

敷地図

- 用途地域 : 商業地域、第1種低層住居専用地域
- 敷地面積 : 2,138㎡



求積表



符号	底辺	高さ	倍面積
①	35.478	2.186	77.5549080
②	31.069	0.562	17.4607780
③	30.663	18.618	570.8837340
④	54.511	22.312	1216.2494320
⑤	40.231	13.095	526.8249450
⑥	23.959	18.027	431.9088930
⑦	23.959	0.397	9.5117230
⑧	23.809	5.891	140.2588190
⑨	23.196	6.054	140.4285840
⑩	23.196	6.943	161.0498280
⑪	14.819	6.053	89.6994070
⑫	17.140	5.208	89.2651200
⑬	21.290	4.127	87.8638300
⑭	22.943	1.266	29.0458380
⑮	51.335	9.179	471.2039650
⑯	44.172	4.574	202.0427280
⑰	20.751	0.711	14.7539610
合計			4276.0064930
合計面積			2138.00

3 今後のスケジュールについて

万福寺土地区画整理事業工事完了と同時竣工を予定しています。

- ・ 17 年度：管理運営計画の策定

基本設計、実施設計

- ・ 18 年度：建設工事

（仮称）アートセンター設置条例議案の提出

指定管理者の申請の公告

指定管理者の指定議案の提出

- ・ 19 年 4 月開設